

1 平成26年度決算（自平成26年4月1日 至平成27年3月31日）

(1) 貸借対照表（平成27年3月31日現在）（単位 円）

資 産 の 部			負 債 の 部		
区分	科 目	金 額	区分	科 目	金 額
流 動 資 産	1 現金・預金	97,741,585	流 動 負 債	1 1年以内返済 の長期借入金	120,648,000
	2 売掛金	8,086,508		2 リース債務	11,978,520
	3 棚卸資産	259,692		3 買掛金	8,050
	4 前払費用	543,260		4 未払金	19,215,011
	5 未収入金	41,701,891		5 未払費用	676,902
				6 前受金	4,452,960
				7 預り金	306,893
				8 未払法人税等	529,500
				9 賞与引当金	1,054,516
	計	148,332,936		計	158,870,352
固 定 資 産	1 建 物	1,360,789,250	固 定 負 債	1 リース債務	25,331,030
	2 建物付属設備	265,648,121		2 長期借入金	307,028,000
	3 構 築 物	23,831,681			
	4 工具器具備品	137,619,433			計
	5 電話加入権	72,800		負債合計	491,229,382
	6 リース資産	37,309,550	純 資 産 の 部		
	7 ソフトウェア	1,981,000	区分	科 目	金 額
		株 主 資 本	1 資 本 金	1,030,000,000	
			2 繰越利益剰余金	454,355,389	
			計	1,484,355,389	
	計	1,827,251,835		純資産合計	1,484,355,389
	資産合計	1,975,584,771		負債・純資産合計	1,975,584,771

(2) 損益計算書 (自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

(単位 円)

科 目	金 額	
売 上 高		470,937,114
売 上 原 価		443,859
売 上 総 利 益		470,493,255
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費		482,634,294
営 業 損 失		12,141,039
営 業 外 収 益		2,859,066
受 取 利 息	18,735	
雑 収 入	2,840,331	
営 業 外 費 用		3,992,977
短 期 借 入 金 利 息	4,219	
長 期 借 入 金 利 息	3,988,758	
経 常 損 失		13,274,950
税 引 前 当 期 純 損 失		13,274,950
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税		1,059,000
当 期 純 損 失		14,333,950

2 平成26年度事業報告

当社は、富山市から指定管理者の指定を受けている「富山国際会議場の管理運営」と、固有の事業である「駐車場の運営」を二本の柱として事業を展開してきた。

事業の遂行にあたっては、国際会議場施設及び駐車場施設が一体的・効率的に機能するよう種々の措置を講じるとともに、コンベンション誘致等の営業活動をはじめ会議場施設利用のコーディネート等に努めた結果、富山国際会議場は広く周知されるようになり、学会、講演会、諸会議、展示会等の幅広い催事で利用された。

国際会議場施設の利用率については、利用用途の高い多目的会議室が86.1%、メインホールが60.7%、その他が67.7%であり、全体では過去最高の75.1%であった。

当社所有の駐車場については、103,832台の利用があり、会議場利用者はもとより隣接するANAクラウンプラザホテル富山の利用者等にも広く利用された。

アートサロンについては、藤田喬平氏のガラス作品等を展示し、格調の高いスペースとして富山市の新産業であるガラス製品の魅力の紹介に努め、10,213人の利用があった。

軽食喫茶「カフェ・ドゥ・ミュゼ」については、情報発信、くつろぎの場、「セントラム」等と連携して賑わいを創出し、催事者のニーズに応え、ケータリングも積極的に行うなど、集客力の向上に取り組み、42,325人の利用があった。

北陸新幹線開業を見据え、グレードの高い最先端の設備とサービスを提供するため、会議場の大規模改修を行った。